

## 冬期スクーリング

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論の根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

-本講義で学習する主な財務指標

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設定する。受講生は、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し (任意)、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会計システム	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
2	会計システムの目的と役割	財務会計の目的と役割を明確化。利害調整と情報提供という目的観を解説。
3	会計システムのインプット	会計システムのインプットである「取引」について理解する。
4	会計システムのアウトプット	損益計算書と貸借対照表について解説。収支計算書との関係を理解する。
5	複式簿記	簿記一巡の手続きの説明・実践を行う。
6	会計基準と会計法規	財務会計に関わる会計基準と法規制について、その存在理由と期待される役割を解説。
7	日本の会計基準	日本の会計基準の歴史を概観し、『企業会計原則』と『企業会計基準』について解説。
8	世界の会計基準	米国会計基準、英国会計基準、および国際財務報告基準 (IFRS) の歴史と「概念フレームワーク」を解説。
9	利益計算のアプローチ	損益法と財産法の特徴を考察する。
10	発生主義会計	収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
11	費用収益対応の原則	費用収益対応の原則について、具体例を用いながら解説。
12	筆記試験	第1回から11回からの内容の理解度を確認するための筆記試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業のIR資料を教材として活用する。受講生は必要に応じて各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。

【テキスト (教科書)】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。

【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2018年4月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2018年4月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第9版、中央経済社、2015年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第9版、中央経済社、2015年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版、白桃書房、2010年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の2点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①筆記試験 (80%) : 参照不可の筆記試験 (電卓のみ持ち込み可)。②質問票への記述状況 (20%) : 各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

## 2群 前半集中

GEO300TE

現地研究 (自然) (冬期スクーリング)

羽佐田 紘大

カテゴリー: 冬期 | 予備登録の有無: 必要  
授業形態: スクーリング | 単位数: 1単位  
期間: 2群前半集中  
受講可能な学科・学年: 『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
備考:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

伊勢・鳥羽を事例に、沿岸域の自然環境を理解し、人間活動との関係を考えていく。

【到達目標】

- 1) 伊勢・鳥羽の自然環境の特徴を理解できる。
- 2) 対象地域の特徴を把握した上で、暮らしとのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本的には、終日屋外で実施する (一部屋内施設を利用する)。行程 (予定) は以下の通りである。

- 1 日目: 現地集合。二見浦周辺を見学し、自然環境について把握する。
- 2 日目: 離島 (神島を検討中) の自然環境を観察し、人々とのかかわりについて学ぶ。
- 3 日目: 伊勢 (朝熊山周辺を検討中) の自然環境の特徴を理解する。現地解散。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		

- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

伊勢・鳥羽および離島の自然環境（地形・地質・植生など）について事前に予備知識を得ておくことが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

特に指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

全日程の出席が成績評価の前提である。授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。公共交通機関や徒歩による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。

実施期間：2019年1月28日（月）～30日（水）

実施場所：伊勢・鳥羽および離島（神鳥を検討中）

費用（宿泊費・交通費等）：30000円程度

宿泊場所：未定（伊勢市内のビジネスホテルを予定、2泊とも同じ場所）

HUG300TE
<b>現地研究（人文）（冬期スクーリング）</b>
中川 秀一
カテゴリー：冬期   予備登録の有無：必要 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

九州山地での地域づくりの取り組みを訪ねます。西南日本外帯に位置する急峻な九州山地の地域の自然、伝統文化、歴史資源や生業の様子を視察します。地域の資源を人々がどのように見つめ直してきたか、また災害とも向き合いながら生活に根差したまちづくり、むらおこしに取り組んできた営みについて聞き取りをします。

**【到達目標】**

日本の山地に位置する地域社会の生活について理解を深めます。様々な地域の暮らしの成り立ちを考え、現代の世界の中でどのように存立が図られ得るのか、地域の問題をより広い文脈で考える地理的想像力を養うことを目指します。また、今回の現地探訪は、地域の動向に寄り添いながら生涯を学究活動に身をささげた上野登宮崎大学名誉教授の研究を補助線とします。その足跡を辿り、学問と運動の関係についても想をめぐらせたいと思います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

現地を訪ね、博物館、資料館などの施設を訪ねるほか、役場での聞き取りを行います。最終日には、振り返りとディスカッションを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	初日 オリエンテーション	本講義の趣旨と概要を説明します。
第2回	移動 アイスブレイク	貸切バスで移動する車中、参加者同士で自己紹介をします。
第3回	宮崎市：県相 NPO 活動の概況 みやざき NPO ハウス	宮崎県で活動する NPO が集まる施設を訪ねます。照葉樹林の復元活動を行っている「てるはの森の会」「アジア砒素ネットワーク」で聞き取り。
第4回	綾町：照葉樹林の森の観察 有機農業の取り組み 西米良村：菊池記念館、銀鏡神社	車中より照葉樹林重りを観察しながら綾町に向かいます。昼食は、有機農業の村おこしを象徴するお店でとり、お話をうかがう予定。
第5回	西米良村：「自立した集落経営モデル事業」の視察 おがわ作小屋村 宿泊	現在 60 世帯、90 名の集落で平均年齢 65 歳の集落内の女性たちを中心となって、運営している食堂・コテージ村。宿泊し、聞き取り。
第6回	2日目 椎葉村：民俗芸能博物館	神楽など山里の伝統的な暮らしに根差した民俗芸能についての博物館視察。
第7回	諸塚村：役場での聞き取り	小集落（公民館）を単位とする先進的なまちづくり活動についての聞き取り
第8回	五ヶ瀬村：「ヤマメの里」 フォレストピア 宿泊	ヤマメの養殖やスキー場ゲレンデの運営を通じた自然とのかかわりを活かした観光開発の取り組みの視察。
第9回	3日目 五ヶ瀬村：五ヶ瀬ワイナリー	ワイン造りを通じたまちづくりの取り組みについて、ワイナリーを視察し、聞き取り。
第10回	高千穂町 土呂久鉦山跡	1962 年休山した銀や亜鉛の鉦山。その後亜ヒ酸鉦害が問題となり、支援活動は国際的な広がりを持つものとなった。現場訪問。
第11回	振り返り：ディスカッション	会場未定 3日間の活動を振り返り、ディスカッションを通じて各自のテーマを検討。
第12回	解散	高森駅または熊本空港で解散

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前にテキストに目を通しておいて下さい。

**【テキスト（教科書）】**

上野登『照葉樹林って何だろう』鉦脈社、2010年。  
現在は新本は手に入りにくいかもしれません。古本でも構いません。

**【参考書】**

- 上野登『世界史の地理的構造』八潮社、2012年。
- 〃『土呂久からアジアへ』鉦脈社、2006年。
- 〃『再生・照葉樹林回廊』鉦脈社、2004年。
- 〃『変貌する世界像』大明堂、2000年。
- 中尾佐助『栽培植物と農耕の起源』岩波書店、1966年。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加状況（50%）と提出されたレポート（50%）内容によって評価します。

# 冬期スクーリング

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の豊富な社会経験が現地研究に役立つこともありますが、現地の方々に対して礼儀を欠く場合もありました。授業の目的を受講生が共有できるように、オリエンテーションを丁寧に行うように気を付けたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを介したメールで資料配布等を行うことがあります。また、レポート提出をメールで行います。ネットでMS社ワードやpdfのファイルを送受信できるように準備して下さい。

## 2群 後半集中

GEO200TE
<b>地誌学特講 (冬期スクーリング)</b>
八木 浩司
カテゴリー：冬期   予備登録の有無：必要 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地誌学的観点から、カオスとしての地域からその特色・地域性を読み取るスキルを得る。

### 【到達目標】

日本とは大きく異なる海外の自然・社会環境のもとで人々がいかにそれらに柔軟に対応して暮らしているかを学ぶことで、我々の日常生活習慣とは大きく異なるものを目にした際に、それらが異なるものではなく、当該地域における自然環境や歴史・社会環境の元で合理的に醸成されてきたものであることを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

本授業では、中国南部、東南アジア北部、チベット、ブータン・ネパール・インド・パキスタンなどのヒマラヤ、およびパキスタン・カラコルム地域を例題的に取り上げ、そこでの自然景観や人々の暮らしを主に画像や資料で紹介しながら、それら人文・自然景観の形成背景・要因を読み取るスキルを獲得していく。さらに、ヒマラヤ地域における人的移動を含んだ歴史的背景を学んだうえで、同地域の地域性を如何に捉えていくか、さらに同地域が現在抱える問題点や将来の課題について受講者とともに考察していく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地誌学とは何か	地域性を読み取る切り口としての景観の意味について述べる。
第2回	地誌学のテーマとしてのアジア山岳地域	中国南部からヒマラヤ、中央アジアに至る山岳地域の地理的定義と自然景観区分について述べる。
第3回	自然景観を形成する地球システムⅠ	インド・ヒマラヤ地域及びその周辺地域の形成について述べる。
第4回	自然景観を形成する地球システムⅡ	アジアの水系と気候について、ヒマラヤ・チベット地域との関連性から述べる。
第5回	人文景観としての南アジア山岳地域Ⅰ	ヒマラヤ地域の植生と天然林産物の利用など伝統的生業活動について述べる。
第6回	人文景観としての南アジア山岳地域Ⅱ	ヒマラヤおよび周辺山岳地域の民族・宗教について述べる。

第7回	人文景観としての南アジア山岳地域Ⅲ	ヒマラヤおよび周辺山岳地域の耕作景観と栽培作物について述べる。
第8回	地域性を構成するもう一つの要因	ヒマラヤおよび周辺山岳地域及びその周辺地域の歴史について述べる。
第9回	南アジア山岳地域の自然災害	ヒマラヤおよび周辺山岳地域の自然災害について自然環境論的に述べる。
第10回	南アジア山岳地域における自然災害と社会開発	ヒマラヤおよび周辺山岳地域における自然災害について災害回避と社会開発の観点から述べる。
第11回	南アジア山岳地域の課題について考えるⅠ	グループでテーマを選び、その地域を訪問・調査することを仮定したプレゼンテーションのための準備を行う。
第12回	南アジア山岳地域の課題について考えるⅡ	グループごとに、ヒマラヤおよび周辺山岳地域の抱える課題についてプレゼンテーションを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ヒマラヤ地域を対象に、受講者が関心ある課題ごとにグループを構成し、各グループで研究テーマを選び、その地域を訪問・調査することを仮定したプレゼンテーションを行うため、その準備を行う必要がある。

### 【テキスト (教科書)】

二宮書店編集部編『データブック オブ・ザ・ワールド-世界各国要覧と最新統計』(二宮書店)

### 【参考書】

木崎甲子郎『ヒマラヤはどこから来たか』(中公新書)、  
小倉清子『ネパール王制解体』(NHK ブックス)

### 【成績評価の方法と基準】

・グループ・プレゼンテーションによる評価 (40%)  
・提出された各受講者からのレポートによる評価 (60%)

### 【学生の意見等からの気づき】

「本年度新規科目につきアンケートを実施していません」

### 【学生が準備すべき機器他】

大学のWiFiに接続可能なスマートフォン、PadあるいはラップトップPCなどの情報機器。GoogleEarthなどの地図ソフトが、閲覧できるようにしてほしい。

GEO300TE
<b>測量学及び測量実習 (2) (冬期スクーリング)</b>
豊田 友夫
カテゴリー：冬期   予備登録の有無：必要 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実習を行うことにより測量の基礎的技術の習得を目指す。特にトータルステーションを用いた基準点測量及び最新の技術であるGNSS測量を中心に講義、実習を行う。あわせて、測量士補資格に必要な知識を習得する。

### 【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。基準点測量の理論を理解することにより、実習で得られたデータの計算処理を習得する。またGNSS測量の原理と方法を理解する。